

## IPPNW 世界大会感想文

秋田大学5年 中村 まなび

IPPNW 世界大会に参加するにあたって、私がやりたいと思っていたことは、3 つあります。ひとつは、日本にも、核兵器廃絶や平和を実現するために自分に何ができるのだろうと考え、模索している学生がいることを知らせたいと思っていました。この目標は、反核医師の会学生部会の活動紹介を持って行ったこともあり、達成できたと思っています。学生部会の活動も、まだまだ軌道に乗っているわけではなく、日常的な活動に繋がっていないなど課題は多々ありますが、私たちの活動を知って「参考にするよ」と話してくれた学生もいました。

「どうして日本人は被爆国にいながら、ふだんから核兵器について話さないのか？」と他国の学生から質問されたことも印象に残っています。学生部会の中でも、「ふだんは友人とも平和や核兵器についてあまり話さない」との声が聞かれます。核兵器廃絶は決して個人ひとりの意見だけで実現できることではありません。ひとりでも多くの人に話し、世界市民的な議論にしていくことが必要になると思います。だからこそ、他国の学生はどうやって核兵器廃絶の想いを周りに広めているのか、打開策を得たいと思っていました。しかし、各国から世界大会に集まった学生と話す中で、他の国の学生たちも同じような悩みを抱えていると知りました。一方、私は IPPNW 世界大会に参加するために、医学部5年生としての最大の学業(=病棟実習)を欠席し、夏休みに補習を受けて IPPNW に行けることになったのですが、そのときに協力してくれた大学教員の医師に「平和というところに関わっていくことも大事です。実習を休んでまで行ってきたんだから、これからはぜひそういうことに関わる医師として頑張ってください。」と声をかけてもらったことも私の心に残っています。IPPNW 世界大会に行ったことを知り、興味を持って話を聞いてくれる医学生仲間も数多くいます。徐々に、徐々に、ではありますが、反核・平和を求める輪は広がっていると感じています。

いま、最も大切なことは、これから私たちが何をするかだと思っています。これからも、核兵器のない世界と平和の実現を切望し、そのための学びを止めることはありません。学び、仲間と語り合い、発信し続けていきます。IPPNW 世界大会はとても楽しく、有意義な経験になりました。これからの活動も楽しみながら、自分ができること・仲間とともにできることを一歩ずつ、前に進んでいきたいと考えています。

Basel をともに過ごしたみなさんと、またお会いできる日を楽しみにしています。